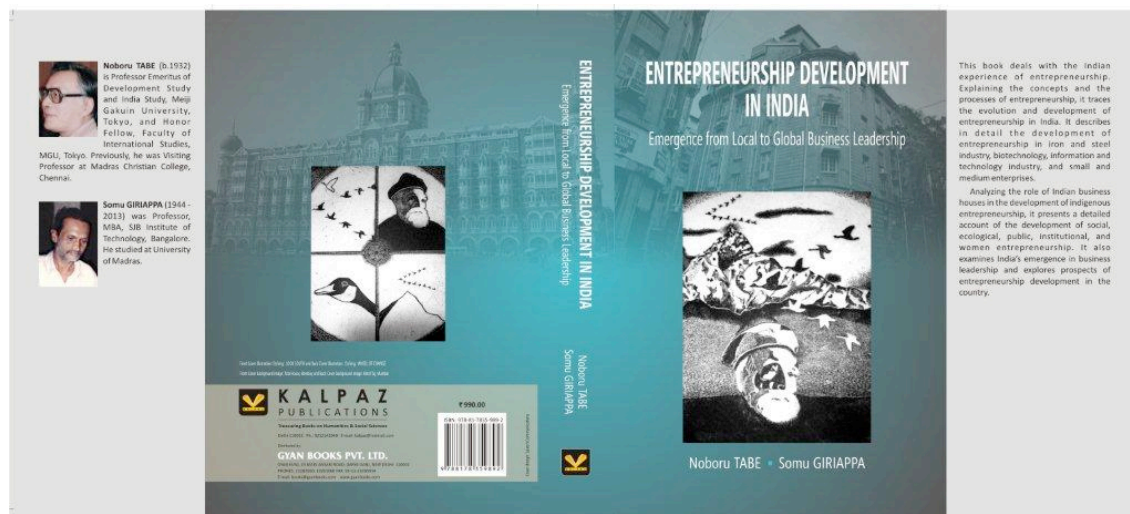




明治学院大学機関リポジトリ  
<http://repository.meijigakuin.ac.jp/>

Title	"Entrepreneurship Development in India"出版のお知らせ
Author(s)	田部, 昇
Citation	
Issue Date	2013
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10723/1696">http://hdl.handle.net/10723/1696</a>
Rights	

# 英文図書（共著）出版のお知らせ



明治学院大学名誉教授田部昇は下記の英文共著を Kalpaz（叡智） 叢書、GyanBooksPvt.Ltd., Delhi より出版しました。内容についてご質問等があれば筆者宛にご連絡ください。

E-Mail: [tnoboru@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:tnoboru@vanilla.ocn.ne.jp)

HP; [www.tabenoboru.com/](http://www.tabenoboru.com/)

## 1. 書名

*ENTREPRENEURSHIP DEVELOPMENT IN INDIA*

*Emergence from Local to Global Business Leadership*

『インドアントレプレナーシップの発展：

地場からグローバル企業行動へ』(原著名対応訳)

## 2. 共著者名

Noboru Tabe & Somu Giriappa (田部昇/ ソム・ギリアップ)

## 3. 出版社

Kalpaz Publications,

Gyan Books Pvt.Ltd., Delhi, India

C-39、 Satyawati Nagar, Delhi-110052、  
Ph. :9212142040  
E-mail:Kalpaz@hotmail.com

ISBN:9788178359892

4. 出版年・月 2013年 8月
5. ページ数 333ページ
6. 定価：インドルピーRp. 990.00
7. 国内販売書店：未定

## 著者から読者へ

### 英文図書の内容紹介

#### 『インドアントレプレナーシップの発展：地場からグローバル企業行動へ』（原著名対応訳）

この著書はインドの学者、Dr. Somu Giriappa と共同して執筆され、2013年8月末インドの学術出版社 カルパス(叡智)叢書 (Kalpaz Publications) , Gyan Books Pvt., Ltd. Delhi から刊行されました。その内容を紹介します。

1. 原著書名とその邦語訳；表題 ‘Entrepreneurship’ はフランス語 ‘entrepreneur’ の英語読みとして経済学者シュンペーター (J. A. Schumpeter) が経済活動に革新 (innovation) をもたらす ‘企業者活動’ (故東畑精一教授による訳語) の総体概念として用いられました。20世紀後半になると、学問分野の細分化にともない経済理論、経済史、経営学、社会学、動機分析など心理学などの領域で一層緻密化されるようになりました。このような研究状況のもと、日本では英語読み ‘アントレプレナーシップ’ がそのまま使われています。このような概念の系譜は本書第一章「概念の整理とその系譜」で詳述しました。
2. インドの工業化過程にあって英領インド時代に輩出したタータ財閥の創始者

J. N. タータ (Tata) は明治期日本に先駆けアジアで最初の製鉄所 (TISCO) を建設した企業家としてインド財閥形成史にその名を刻みます。しかし、イギリス植民地下の工業化は挫折しその後、半世紀を経て独立インド工業化の新たな局面が始動します。このようなアントレプレナーシップの展開過程は第二章「インドのアントレプレナーシップ：その進化と展開」に詳述しました。この章は私の最初の英文図書, TABE, Noboru (1970) Indian Entrepreneurs at the Cross Roads; a study of business leadership, Institute of Developing Economies, Tokyo. (特殊法人アジア経済研究所) のなか該当部分を加筆・訂正したもので構成されます。

3. **第三章「鉄鋼業のアントレプレナーシップとその発展」**は半世紀以上の経験をもつインド鉄鋼業が独立後 (1947)、ドイツ、ロシア (当時 USSR)、日本などで出現していた革新的な技術にどのように対応したかを俯瞰しました。
4. 独立インドは「社会主義的社会的建設」と呼ばれた開発イデオロギーの支配する開発体制を選択。混合経済体制 (Mixed Economies) と称される国家主導の工業化体制をとりました。その結果、市場に対する政府介入は非効率を生み、再三にわたる経済危機をもたらしました。  
1991年、国家運営の基本を経済自由化政策に軸足を転換し、この時期を境にして次第にアントレプレナーシップ、つまり民間企業家による経済活動の革新が始動します。その新たな産業分野は僅か二十年を経て情報技術 (IT) とバイオ技術の両分野で飛躍的な発達を遂げました。  
南インド カルナータカ州都バンガロール市と、その東部に隣接するアンドラ・プラデーシ州都ハイデラバード市を中心に世界大の‘革新空間’が出現したのです。**第四章「インド情報技術産業の出現」と第五章「インド バイオ技術の企業化」**は個別企業別にアントレプレナーシップの特徴を詳述しています。
5. **第六章「インド企業集団と地場企業者活動」**および、**第七章「中小企業のアントレプレナーシップ発達」**は、インド企業者史に登場する家族経営や氏族経営の経済主体がいわゆる、伝統的産業分野から新しい分野へと経営資源を転換し始めた様子を俯瞰しています。
6. 経済活動における革新の担い手、その機能・役割を総体として概念化したアントレプレナーシップは私的利益追求だけの企業活動にとどまらず、公益または社会的便益追求のための社会的活動をも含意すると理解されるようになりました。インドで急速に発達した非経済的活動の分野、とくに、福祉、

エコロジー、環境、貧困制度化などに特化した NPO 等非営利組織の活動も新しい活動主体として注目します。第八章「社会的アントレプレナーシップの出現」がその現況を検討します。

経済的便益を追求する企業者活動は個人や組織を取り巻く文化的環境因子や、ひろく社会的環境に深く依存し、また相互に影響を及ぼします。したがって所謂、社会的環境に直接的に影響をあたえる活動、すなわち、社会性、公共性、エコロジー、制度枠、ジェンダーに特化する活動の担い手とその革新性は現代社会が生み出した新しいアントレプレナーシップ概念と位置付けています。

7. アントレプレナーシップを構成する‘革新性’文化は各国・産業間の比較検証によってインドの得意性（競争性）が浮かび上がります。歴史的経緯のなかで日本、中国、インドの三カ国を産業発展の‘雁行形態論’（故小島清教授）によって比較すると IT 分野の革新性に特徴をもつ新規産業の創出に成功したインドの経験は注目に値します。この事例が示すとおり世界大の技術ドメインに生起する‘機会構造’を的確に把握し、経営資源を集中的に投下した新技術産業を追及するグローバルな視野をもつ企業者の出現が待たれます。このインドの経験は第九章「革新性とアントレプレナーシップ：インドのビジネスリーダーシップ出現」、そして、第十章「インド アントレプレナーシップ発展の展望」は国際的評価基準として最近注目され始めた「グローバルアントレプレナーシップ発展指標」（GEDI）からみたインドの現況を展望して本書の結語としています。
8. 本書の全章を通じて読者に伝えたい二つのメッセージを付言したいと思いません。21世紀後半の経済大国、インドの台頭を確実にする二つの成長源泉は何か。そのポテンシャルは二つ、グローバルな視野を備えたアントレプレナーシップの出現。そして、新たな技術ドメイン、すなわち情報技術（IT）やバイオ（Bio-Technology）諸領域での「革新力」にあると考えます。

本書のブックカバー表紙に銅版画エッチング技法で刻んだ画像「LOOK SOUTH」（南へ！）、そして、同じく裏面の画像「WHEEL OF CHANGE」（革新の輪）、それぞれが含意するメッセージを読み取っていただければ筆者としてこの上もない喜びです。

9. 装丁：ブックカバー表紙を飾る背景画像はインド財閥本社（ムンバイ市）前面の挿入画像は銅版画タイトル {LOOK SOUTH}（南へ）。画像背景にはユネスコ世界遺産の西部ヒマラヤ山系を飛翔する雁行フライトの一群、手前はタータ財閥創始者 J.N. タータのプロフィールが精密画のように美しく彫られた作品。製作

は上村愛氏（武蔵野美術大学）による。

装丁：ブックカバー裏面を飾る背景画はムンバイ市 インド門 Gate of India に面して立つ有名な、タージ マハル ホテル(Taj Mahal Hotel)の威容。前面の挿入画像は銅版画タイトル{WHEEL OF CHANGE}（変革の輪）。

因果の輪はユネスコ世界遺産コナーラクのスーリヤ寺院基壇の彫刻(車輪)の原画を使い、右上；インド産業化の先導者 J.N. タータ。右下；ヒマラヤを越える雁行飛翔隊のイメージ。 左下；産業化の先導者クローズ・アップ。 左上；飛翔隊から離れる‘逸脱者’のイメージ、など四つの因果面から構成されます。このような{変革の輪}すなわち、 伝統や慣習性から逸脱する行動、革新性の表象としてのアントレプレナーシップは累積的因果関係として把握されています。

製作は上村愛氏（武蔵野美術大学）による。

10. 献辞；本書を著者二人の共通の師、Dr. D. S. Chandran Devanesen に捧げる。同氏は英領インド時代最古の伝統校、マドラス基督教大学（Madras Christian College）の、独立後最初のインド人学長として大学運営のインド化を成し遂げた。また、自身はガンジー研究者として著名でその歴史研究書はわが国でも翻訳された。私は 1970 年度、経済学部の客員教授として招聘され、家族とともにマドラス郊外タンバラム（Tambaram）キャンパスに一年間を過ごした。その間、同学長と令夫人 Savitri Devanesen と心温まる交流をつうじインドの心を学ぶ日々があつた。私の人生の師として記憶に残る教育者であり研究者でもある。

共同著作者 Dr. Somu Giriappa は当時、大学院修士課程を履修中であり私の指導下にあつて学位取得論文作成に没頭する日々を過ごした。

本書冒頭ページにある{献辞}は同氏が作詞した。

11. 訃報：共同執筆者 Dr. Somu Giriappa 教授の急逝。  
私のインドマドラス大学マドラス基督教大学客員教授時代(1970～71)の教え子でありその後、半世紀にわたって交流を続けてきた共同研究者でもある同氏は一次稿入稿の直前、2013年三月二十七日、バンガロール市の自宅において急逝された。原稿の最終校正をほぼ終える段階であるにも関わらず、急遽、「はしがき」{Foreward}と「あとがき」{Afterword} に同氏を悼む言葉を追加掲載することができた。このような格別の配慮に対し Gyan 出版社社長 Amit Garg 氏に深く感謝の意を表したい。

## ABOUT THE BOOK

Promoting the readership for the book, a final draft manuscript is reproduced, as it will appear in a book form ; *Entrepreneurship Development in India: emergence from local to global business leadership*

It is by no means, a preprint of the forthcoming book and/or E-book by Kalpaz Publications, Gyan Books Pvt. Ltd. Delhi, India.

This new book, written jointly by two senior professors from Japan and India, is a welcome addition to entrepreneurship study in contemporary academic scenario.

It is also a unique account of transitional business models of Indian global business entrepreneurs, that tell the story of their successful games in mapping 'a cluster of innovation' in Indian industries.

While this book deals with the India's experience since the birth of the Tata's and Birla's combines, it focuses on evolutionary changes in role and function of business leadership that took place since early 90<sup>th</sup> in response to an emerging economic opportunity. The authors shared the same understanding that a search for technology 'sovereignty' by a prospective management makes a difference to pave the way for global leadership. Information, bio-pharmaceutical, medical, and radical electronics-based technology is the case of selected growth for global leadership. The authors are reasonably optimistic of the Indian dynamism of innovation and the future of entrepreneurship development to pilot the way for *LOOK SOUTH* and *WHEEL OF CHANGE (INNOVATION)*, both being the favorite icons of the authors' messages.

This is an aspect of appreciation made by Raymond Vernon, the renowned architect of Multinationals Study, when the first author's book, *Indian Entrepreneurs at the Cross Road: a study of business leadership* (IDE, Tokyo, 1970) was added to his shelf of reference in *Storms over the Multinationals* (1977). While the newly published book will have much of equally substantive academic contribution in entrepreneurship study, it should also help potential and existing entrepreneurs in and outside the country to pinpoint a cluster of innovation and entrepreneurship in fast growing economies of India.

Noboru TABE

Professor Emeritus

Meiji Gakuin University , Tokyo